

日本国際地図学会平成 19 年度定期大会プログラム

【リレーシンポジウム】地図の DNA—デジタル時代に活かすカルトグラフィーの遺伝子—

いま地図の世界は、かつて経験しなかった変革の真っ只中にあります。地図を取り巻く環境は、地図作成技術としての GIS の普及に加えて、地図コミュニケーションの形態も高速のインターネット網によって急速にその有り様を変えようとしています。さらに今後は、情報通信機器のモバイル化、ユビキタス化が生活の隅々までゆきわたり、デジタル地図利用が日常化することが予想されます。

今年度の定期大会では、古代から続く長い地図の歴史と伝統のもとで継承されてきた「地図の DNA」を、デジタル時代にどのように継承・発展させるのか、また新しい地図の時代に求められる地図学の役割とは何かについて考えるために、下記のテーマに関するリレーシンポジウムとパネルディスカッションを企画しました。前日の巡検と併せて多くの方のご参加をお待ちしております。

- (1) デジタル時代のカルトグラファー
- (2) ウェブマッピングサービスは万能か？
- (3) 学校教育に見る「地図の DNA」—生まれつつある「GIS ディバイド」の危機—
- (4) パネルディスカッション：紙地図とデジタル地図の将来

第1日 8月25日(土) 9:30～18:00

開始時刻	発表番号・題目・発表者	ページ
	研究発表(1)	
9:30	O01 中国における市場調査のための地図データ作成の試み—上海黄浦(こうほ)区を例として— 柴田健一*・小林和夫・牛島拓也(シービーエス㈱)・森崎真吾(㈱ネクストアイ)	34
9:50	O02 オントロジーを利用した地図パーソナライゼーションの実装 黒川史子*・太田守重(国際航業㈱)	36
10:10	O03 世界交通地図帳作成の意義:ユーザーの視点からの現状と考察 永田 喬(台湾 大葉大学)	38
	研究発表(2)	
10:40	O04 平成14年2万5千分1地形図図式で新たに制定された地形図記号に対する利用者の意識について 小堀 昇*・青山雅史((財)日本地図センター)、小白井亮一(国土地理院)、甲斐 納(国土地理院)	40
11:00	O05 治水地形分類図の利活用とGIS・3D 成田秋義・沢田 健・称津知広・石岡佳高(国土交通省湯沢河川国道事務所)、春山成子(東京大学新領域創成科学研究科)、田原達人・市川清次*・松田明浩・飛田祐作・渡辺健介(いであ株式会社)	42
11:20	O06 土地条件図の数値データを利用した災害研究やハザードマップの利活用 小荒井衛*・佐藤 浩・宇根 寛・北原敏夫(国土地理院)	44
	ポスター紹介	
11:40	P01 土地利用図の表現方法と課題 高田明典((財)日本地図センター)	66
	P02 『東京デジタルアトラス』のプロトタイプモデル 森田 喬(法政大学)	68
11:50	昼休み 評議員会(11:50～12:30) ポスター発表・コアタイム(12:30～13:00)	
	特別講演	
13:00	今こそ見直したいアナログ地図の伝統的表現法 今尾恵介(エッセイスト、日本国際地図学会評議員)	4
	シンポジウム(1): デジタル時代のカルトグラファー	
14:10	S11 趣旨説明: デジタル時代のカルトグラファー 今井健三((財)日本水路協会)・齊藤忠光(国土建設学院(非))	6
14:20	S12 カルトグラファーから見た海図作成におけるコンピュータ支援システムの現状と問題点 上田秀敏(海上保安庁海洋情報部)	8
14:40	S13 温故知新で展望を! —デジタル時代に活かすカルトグラフィーの遺伝子— 辻野民雄(地図之研究室)	10
15:00	S14 民間におけるコンピュータ導入による地図作製の現状と技術者の課題 藤沼邦雄(国土地図(株))	12
15:20	総合討論	

15:50	シンポジウム(2):ウェブマッピングサービスは万能か? S21 趣旨説明:ウェブマッピングサービスは万能か?	石川 剛(㈱東京地図研究社・GISNEXT編集部)	14
16:00	S22 ウェブマッピングサービスの概要と現状	古橋大地(マップコンシェルジュ(株))	16
16:20	S23 ウェブマッピングサービスとSVG	高木 悟(KDDI研究所)	17
16:40	S24 IT時代における地図の行方	青木宏人(北海道地図㈱)	20
17:00	S25 エゴセントリック・マッピング	有川正俊(東京大学・空間情報科学研究センター)	22
17:20	総合討論		
18:30	懇親会		

第2日 8月26日(日) 9:30~17:00

9:30	研究発表(3) O07 地図投影逆変換の汎用的数値解法プログラム	政春尋志(国土地理院)	46
9:50	O08 劣化画像解析による古地図からのランドマーク抽出の検討	若間俊旭*・岡田至弘(龍谷大学理工学部情報メディア学科)	48
10:10	O09 5000番台海図とW14××海図の関係と変遷について	伊藤 等(日本大学)	50
10:40	研究発表(4) O10 英国海軍による明治期の伊勢志摩海図 柳橋悦と御木本幸吉の近代「海国志」	目崎茂和(南山大学)	52
11:00	O11 スエズ運河を最初に記した地図	河本大洋(名古屋芸術大学)	54
11:20	O12 明治初期ジュールダンらによる『敦賀湾』ほかの地図について	細井将右(創価大学)	56
11:40	O13 米国議会図書館所蔵の伊能大図と国土地理院所蔵の伊能中図	菱山剛秀(国土地理院)	58
12:00	(昼休み)		
13:00	研究発表(5) O14 米国地理学教室における地図学・GIS教育の変遷—ワシントン大学の事例を中心として—	鈴木厚志(立正大学)	60
13:20	O15 児童生徒を対象とした地図作品展の運営と地域協働ネットワークづくり	亀井啓一郎*(立正大学・非)、原美登里(立正大学)・鈴木厚志(立正大学)・元木理寿(立正大学ORC)	62
13:40	O16 環境地図づくりで高める学力	小野寺徹*(北海道滝川高等学校)・氷見山幸夫(北海道教育大学旭川校)	64
14:10	シンポジウム(3):学校教育に見る「地図のDNA」—生まれつつある「GISディバイド」の危機— S31 趣旨説明:学校教育に見る「地図のDNA」—生まれつつある「GISディバイド」の危機—	太田 弘(慶應義塾普通部、学校GIS教育専門部会副主査)	24
14:20	S32 「アナログ手法」で鍛えるGISの知識と技能—防災教育を例に—	伊藤智章(静岡県立吉原高校)	26
14:40	S33 GISを用いた中学校社会科教育実践—新しい市民の素養としての情報リテラシーを育てる—	東 桂子(藤沢市立湘洋中学)	28
15:00	S34 コトはGIS以前—現代の学校に潜む「GISディバイド」の危機と地図教育の現実—	木下礼子(神奈川県立和泉高校)	30
15:20	総合討論		
16:00	パネルディスカッション:紙地図とデジタル地図の将来 S41 趣旨説明:紙地図とデジタル地図の将来— ICC モスクワ大会の動向を参考に—	森田 喬(法政大学)	32
16:10	総合討論		
17:00	終了		

日本地球惑星科学連合 2007 大会発表ポスターの展示

－「地球惑星科学における地図・空間表現」セッション－

日本地球惑星科学連合が毎年5月に開催する「日本地球惑星科学連合大会」(略称:連合大会)では、地理学や地図学も含む地球惑星科学の各分野の多数の研究発表が行われています。日本国際地図学会は、連合大会で新たに「地球惑星科学における地図・空間表現」というセッションを運営することになりました。第1回目となる今年度の連合大会では、同セッションで9件の研究発表がポスター形式で行われました。より多くの会員に連合大会の発表内容を知っていただけるよう、本定期大会で同じポスターを掲示することを企画しました。掲示されるのは、以下の発表のポスターです。

熊木洋太:地球惑星科学における地図・空間表現の意義

大塚孝泰・門脇利広:航空レーザ測量データを活用した空間表現事例

千葉達郎・鈴木雄介・平松孝晋:地形表現手法の諸問題と赤色立体地図

世古口竜一・秋山幸秀・小林 浩・高貫潤一:陰陽図の応用利用

栗崎直子・三戸嘉之・向山 栄:細密 DEM の特徴を最大に生かすデジタル地形表現図 カラー標高傾斜図 ELSAMAP

佐藤 浩・八木浩司・小荒井衛・関口辰夫:白神山地・泊の平地区における地形分類図の作成

小荒井衛:地図情報、地形分類、災害履歴を組み合わせた有効なハザード情報発信の検討

石川 剛:GISと地図表現を活用した全球気象状態の再現

亀井啓一郎・原美登里・鈴木厚志:地図作品展をととした大学と地域社会との協働ネットワーク―「彩の国環境地図作品展」の実践―

【会場案内】

法政大学市ヶ谷キャンパス (千代田区富士見 2-17-1) <http://www.hosei.ac.jp/>

JR 飯田橋駅、または JR・地下鉄市ヶ谷駅から徒歩 10 分



【大会参加費】

普通会員・特別会員団体構成員：1,000 円

学生会員：500 円

非会員：2,000 円 (発表論文・資料集代を含む)

懇親会費：4,000 円

※ 地図・図書展示スペースのみの見学は無料